

■ 巻頭言

三十代半ばの薬剤師として



社団法人千葉県薬剤師会
理事 青野匡宏

今期より千葉県薬剤師会の理事を務めさせていただくことになりました青野と申します。

まだまだ若輩者でございますので、会員の先生方のご指導、ご鞭撻を賜る事が出来れば幸いです。

3月11日の震災においては自宅のある浦安市は液状化の被害に見舞われ、地震当日は店舗から家に帰るまでの道が灌水しておりました。地震当日の交通機関の麻痺により、翌日は外来の患者様は少なくなるとも思いましたが、手元に十分な薬を持っていたという不安感からか、多くの患者様がご来局されました。

災害時にこそ、より必要とされる職種である事を改めて感じ、三十代半ばの薬剤師として今どのような事を意識するべきかを考えた時に、以下の事が思い当りました。

○在宅医療への積極的な参加

認知症の患者様のお宅に伺うと、薬局での投薬時には考えられないような、飲み残しや過量服用を目にする事があります。高齢化が進む世の中において、現状お困りの方はたくさんいらっしゃいます。

在宅に対する調剤報酬の引き上げはもちろん望まれますが、その前に薬剤師が在宅医療に対して積極的な参加の姿勢を見せる事も大切だと思います。介護認定審査会や退院時のカンファレンスなどに参加し、他の職種の方々と話し合う機会があればより良い経験となります。千葉県薬剤師会においても在宅委員会が立ち上がり、より在宅医療に参加しやすい環境は整っていくと思います。他の職種の方々に遅れをとらないように、在宅医療においても薬剤師の存在意義を発揮して行きましょう！

○薬学生実務実習の受入による未来の薬剤師の育成と自己研鑽

千葉県は七つの薬科系大学があり、都内の大学も含め、多くの薬学生実務実習の依頼が来る環境にあります。薬学生に教えるという事は、自分自身の日々の薬剤師としての仕事を再確認する最良の手段だと思います。2ヶ月半という長い期間に戸惑ってしまう方も多いと思いますが、実際受入を行ってみると、あっという間に時間は過ぎ去って行きます。まだ、受入を行っていない薬局の方々は是非一度受入を行って頂ければ幸いです。

○第1分類医薬品・薬局製剤を中心としたOTC薬の知識と接客力の向上

2類、3類の医薬品を登録販売者が販売出来るようになりましたが、第1分類医薬品と薬局製剤は薬剤師のみの販売が明確化されています。スイッチOTC薬の品目が増えていく中、OTC薬販売にも今一度意識を高め、関わっていく必要があると思います。長年店頭で活躍されておられる薬剤師の諸先輩方と接する機会を増やし、会話術や接客術を教えて頂くには、自分の薬局の中に留まらず、積極的に県や市の薬剤師会の会合や講演会に参加する事も良い方法なのではないでしょうか？

6年生の実務経験がある薬学生が多く卒業して来る中で、自己の薬剤師としての能力の研鑽に、建て前だけでは無く、本気で取り組み努力する時期になっていると思います。

病院や薬局という箱にとらわれず、薬剤師としての色々な仕事にチャレンジして行きましょう！その中でも学校薬剤師・災害時のボランティア・休日急患診療所への執務・薬物乱用防止活動など薬剤師会で経験出来る仕事も多くあります。それぞれの分野において個々の職能を発揮して行きましょう！